

インターバンクの声（2014年10月14日）

週末に開催されたG20財務相・中銀総裁会合で、「世界経済減速に対する対処」が主題となった影響か、昨日のドル円相場は、アジアの株式市場が軟調に推移する中、107円割れを試す展開となった。ロンドン時間では、時間外取引でNYダウ先物が反発し一時107円半ばまで持ち直したものの、ニューヨーク時間に入ると、米ダウが200ドル以上下落する中、ドル円は遂に107円を割り込んだ。エボラ出血熱の感染拡大やシカゴ連銀のエバンス総裁が、「海外の経済が減速すれば、米国の利上げを正当化する理由が少なくなる」との見方を示したことも影響した模様だ。米国経済のファンダメンタルズが堅調ではないと見方を変えるのは時期尚早と思われるが、この調整局面がどこまで続くのかを慎重に見極めたい。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。